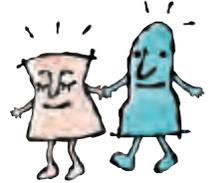


THE **ライフスポーツ** RIFLE SPORTS

2023

1
第458号



- 2022年 WSPS ワールドカップ・チャンピオン大会
- プレジデントカップ
- 第15回アジアエアガン選手権
- 東アジアユースエアガン大会
- 全日本前装銃／全日本マスターズ（10m・50m）他



スポーツクリ

toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

BIG

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ



LOTO

LOTO
FOOTBALL SOCCER OF JAPAN

BIG

ライフルスポーツ

巻頭言

マーケティング委員会委員長 近藤正晃 ジェームス

eスポーツと射撃競技

オリンピックの動向で、いま最も注目されている話題の一つがeスポーツの行方です。

IOCは2017年に「競技性のあるeスポーツはスポーツ活動と見なすことができる」という画期的な声明を出しました。そして、2021年には東京オリンピックのプレイベントとして、初の公式eスポーツ大会「オリンピック・バーチャル・シリーズ (OVS)」が開催されました。OVSでは、野球・自転車・ヨット・ボート・モータースポーツの5種目のeスポーツの試合が行われましたが、ここに射撃のeスポーツの姿はありませんでした。

しかし、多くのeスポーツの中でも射撃(「シューティングゲーム」「射撃ゲーム」)は最も人気がある種目の一つです。世界を代表するシューティングゲームの登録者数は5億人を超えますが、これは世界の射撃競技人口の実に100倍に相当する人数です。

eスポーツの流れは加速しています。私たち射撃競技人口の裾野を広げていくために、そして他の競技に遅れをとらないためにも、eスポーツをもしっかりと取り込んでいくことが戦略上非常に重要になります。

当協会では、ISSF(国際射撃連盟)と連携し、射撃の公式eスポーツ大会競技種目化を目指してIOCと調整を進めております。世界的なゲーム会社との話し合いも進めています。また、スマホを活用した簡便なeスポーツのあり方の検討も行っています。

次回のIOC公式eスポーツ大会は、2023年にシンガポールで開催されます。当協会メンバーが中心となり、射撃のeスポーツの公式種目化を実現し、競技人口の裾野を若者に大きく広げ、射撃競技の未来に寄与していきたいと願っております。



今月の表紙
2022年8月15日から8月25日まで、韓国・昌原市で開催されたWSPSワールドカップ・チャンピオン大会の選手団集合写真。チャンピオン射撃場のロビーで撮影。

目次

新年のご挨拶	2
第70回 ISSF 総会に参加して	3
2022年 WSPS ワールドカップ・チャンピオン大会	5
『プレジデントカップ』に出場して	9
第15回アジアエアガン選手権	11
第15回アジアエアガン RTS ジュリー報告	14
第15回アジアエアガン、テクニカルデレゲート報告 (TD の主な役割)	16
東アジアユースエアガン大会 報告書	17
第45回全日本前装銃射撃競技選手権大会	21
2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会 (CFP 種目)	23
2022年度全日本ライフル射撃選手権大会 (50m ライフル) 兼 全日本選抜ライフル射撃競技大会 (10mAR/AP)	24
全日本ライフル射撃競技選手権大会 (25m ピストル) 兼 強化選手選考会	26
2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会 (50m ピストル)	27
第26回全日本マスターズライフル射撃選手権大会 (10m・50m)	28

新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

皆さま健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2020 東京大会に関わる不正事件の捜査が続き、スポーツのイメージが悪化していく中で、サッカーワールドカップにおける日本代表選手の素晴らしい活躍は、多くの国民に感動を届けてくれました。そして日本中の大声援は選手達に勇気を与えたことでしょう。スポーツは「する人」、「観る人」、「支える人（育てる人）」で成り立つと言われていますが、森保監督を支える人とすれば、サッカーワールドカップはスポーツの理想形を示したと言えるのではないのでしょうか。

私たちライフル射撃競技者は「する人」であり、アスリートを育成する「支える人」でもあります。足りないのは「観る人」です。多くの観客から声援をもらえるような魅力ある競技を目指さなければなりません。簡単ではなく時間も掛かるでしょう。しかしチャレンジしなければ前には進めません。そのために試行錯誤しながらもいろいろなチャレンジをしてみています。

本年もどうぞよろしく願いいたします。



2023 年 元旦
公益社団法人 日本ライフル射撃協会
会長 松丸 喜一郎

第70回 ISSF 総会に参加して

会長 松丸喜一郎

エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催されたISSF総会に日ラを代表して参加した。今回の総会は現リシン体制の継続か、イタリアのロッシ新体制になるか、国際射撃界の将来を決める重要な役員改選総会である。事前の予想はロッシ優勢というものであった。しかし、現地に到着し情報収集をするとリシンを評価している国々も多く優劣が拮抗している。結果は僅差（51.7% vs 48.3%）でロッシが勝利した。単純に計算すると132か国のうち68か国がロッシ、64か国がリシンを支持したことになり、2か国の差が勝敗を分けた。4年前と同じように射撃界が二つに割れた結果である。欧米はロッシを支持し、アジア、アフリカ、南アメリカはリシン支持が多数であったと思われる。

ロッシ支持派の主張は「リシンではオリンピック競技から外される」、「ルールを頻繁に変更し混乱を招いている」、「ジュリーや役員を尊重せず現場で直接指示を出す」等であった。他方、リシン支持の理由は「射撃界の将来を見据えて種々のトライをしている」、「基金を創設して射撃後進国の支援をしている」等である。オリンピックから外されるという情報以外は的を射た評価だろう。



IOCにはオリンピック競技について検討する「プログラム委員会」がある。委員に確認したが、射撃の話は全く出ていないし、バッハ会長の一存で競技が外れたりすることはないとのこと。リシンの実績評価とロッシのマネフェストによるフェアな真っ向勝負を望んでいた両候補にとって、不正確情報の影響は残念であったのではないか。

この選挙結果を受けて、今後の射撃界の方向性を考えると、ルールを以前に戻し現場尊重になると予想される。混乱している現場を正常に戻すことが喫緊課題であるから方向性は正しい。ただ改革優先であったリシン体制の反作用で新体制が保守的になってはいけない。射撃がオリンピック競技として残れるか残れないかを決めるのはバッハ会長ではなく、ISSFでもなく、一般の人々の評価でありIOCは常にそれをモニタリングしている。日ラが推進している「競技の共生化」により人々の共感を得る努力や、「E-スポーツへのチャレンジ」によって若者の取り込みを図る試みによって、射撃界以外の人々の評価を高めることがISSFでも必要である。

関係者のご協力のお陰で私は Executive Committee member（日ラの常務理事）に選出された。社会の評価を高める施策を訴え推進することがISSFにおける私の使命だと考えている。



2022年 WSPS ワールドカップ・チャンウオン大会

実施日：2022年8月15日(月)～8月25日(木)

会場：チャンウオン国際射撃場 (韓国・昌原(チャンウオン)市)

東京大会後初めてのワールドカップ韓国開催

本大会は、2020東京大会後、韓国での初めてのパラ射撃国際大会であった。韓国は国際パラ射撃連盟(WSPS)と3年間に渡りワールドカップを開催する契約を結んでいる。2023年までの3年間ワールドカップ韓国開催が確定している。

日障射連として史上最大の選手団を派遣

このワールドカップは、WSPS 世界選手権(2022年11月に、UAE アルアインで実施された)の出場資格を獲得する大会と位置付けられた。合わせて、パリ大会に向けて国際クラス分け未受験の新人選手およびクラス分けステータスがレヴューの選手のクラス分けを受検すること、国際大会未出場の選手の経験をさせることを目的として、選手団を派遣した。

その結果、選手13名、スタッフ3名、選手同行者4名の合計20名の選手団となった。パラクレーの選手1名を加えると21名となり、日本のパラ射撃史上最大の選手団派遣となった。

※クラス分けにはコンファームド(確定)、レヴュー(再検査)、ニュー(新規)の3つのステータスがある。国際大会に参加するには、コンファームドまたはレヴューのいずれかのステータスの判定を受けていなければならない。

近くて遠かった韓国遠征

昌原(チャンウオン)市はキョンサンナンド(慶州南道)の道庁がある都市で、釜山市の西方40kmにある。本大会の直前にはISSFワールドカップも開催されたので、その名前をご存じの読者も多いと思う。筆者が済む山口市との直線距離は300kmしかなく、大阪よりも近い。日本から近い韓国でチーム全体の経験値を上げることを遠征の狙いと考えたが、その目論見通りにはいかなかった。

当時、コロナ対策で韓国に渡航する日本人はビザの取得が必要とされた。各参加者は居住地を管轄する韓国大使館または領事館で発給の申請をした。東京都在住者の申請先である韓国大使館(東京)は事前のネット予約必須だった。組織委員会にも協力してもらったが、予約が取れない。大会日が近づき、時間切れも危ぶまれる中、選手1名とジュリー1名が苦勞の末予約を獲得し、事なきを得た。

航空便は減便の影響で釜山便が取れる確証がなく、関西空港から仁川へのフライトを予約し、往復ともインチョン(仁川)からチャンウオンまでは組織委員会が用意してくれたバスで4時間の陸路移動となった。

クラス分け

競技前に4名（パラクレー1名を含む）がクラス分けを受検した。クラス分け受検は選手本人と同行者（通訳）1名だけの入室が許され、通常2名のクラシファイア（クラス分け員：WSPSが実施する規定の講習を修了した者。資格取得には医師または理学療法士であることが必要。）によって判定が行われる。受検の結果、3名の新規選手、1名のレヴェューの選手全員がコンファーム下の判定を受けることができた。

日本選手、続々とファイナル進出

2022年6月のワールドカップ・シャトル大会で、水田光夏選手が日本選手8年ぶりとなる国際大会でファイナル進出し、6位に入賞した。それに続き本大会では、13名の日本選手のうち6名が次々とファイナルに進出し入賞した。入賞選手は以下のとおりである。

氏名	種目	得点	順位
望月貴裕	エアライフル立射男子 SH1 (R1)	本戦593.9点 決勝136.6点	7位
	50m ライフル三姿勢男子 SH1 (R7)	本戦1071点 決勝371.6点	6位
岡田和也	エアライフル伏射混合 SH1 (R3)	本戦631.7点 決勝143.6点	7位
渡邊裕介	50m ライフル伏射混合 SH1 (R6)	本戦610.9点 決勝119.7点	8位
木下裕季子	エアライフル立射混合 SH2 (R4)	本戦625.2点 決勝143.3点	7位
水田光夏	エアライフル伏射混合 SH2 (R5)	本戦637.0点 決勝189.9点	5位
大滝健太郎	50m ライフル三姿勢男子 SH1 (R7)	本戦1049点 決勝345.9点	8位

事前の予想より参加国が少なかったとは言え、可能性がある状況でチャンスをしっかりものにした選手たちの健闘を称えたい。

団体戦では、エアライフル伏射混合 SH1で、岡田和也、佐々木大輔、渡邊裕介の3選手のチームが銅メダルを獲得した。

課題

本大会では6名の選手が入賞を果たすことができた。しかし、今後のワールドカップや世界選手権等で入賞を狙えるスコアを撃っているのは、上記の中では水田光夏選手だけである。また、最高順位が最高の水田選手の5位を始め、低位にとどまっている。パリ・パラリンピックに向けて、ファイナルのトレーニングが強化の現実的な課題となった。

パリ大会の出場枠獲得の機会は、2022年アルアイン世界選手権、2023年と来年の世界選手権と今後とも、関係各位の皆様のご支援とご声援をお願いしたい。

大会成績（WSPS ホームページ内）

https://www.paralympic.org/sites/default/files/2022-08/Results Book WSPSWorld Cup Changwon KOR 2022_Final.V2.24.08.2022.pdf

（日障射連 ハイパフォーマンスディレクター 田中辰美）



望月貴裕選手 エアライフル立射のファイナル
後姿は猪坂桂監督



エアライフル伏射のファイナルで入場する岡田和也選手



渡邊裕介選手 50m ライフル伏射のファイナル



男子三姿勢のファイナル



ジュリー出演した馬渡崇氏



射場前で SH2選手たち (左から、鈴木、古賀、水田、木下)

『プレジデントカップ』に出場して

○プレジデントカップとは

プレジデントカップとは、一年間のうちに開催されるワールドカップにおいて、上位12位までの成績の者が出場できる大会です。

○使命感と責任感

今大会は、日本から私一人ということもあり、一人での海外遠征となりました。

不安もありましたが、何とか過去の遠征での動きを思い出して行動しました。

今回一人で遠征した事で、一番感じたことは、改めてスタッフとして動いてくださる方の気遣いがありがたく、また支えられているということです。

このことは、選手が知る必要はないかもしれませんが、知ることによって競技に臨む姿勢により真剣さが増して、更なる使命感と国の代表として出場しているという責任を持って競技に臨むことができると感じました。

○射撃も会話も大事なのは気持ち

エジプトでは当然日本語は通じません。基本的にジュリーや選手とは英語で会話をします。

私自身は英語は喋れませんが、基本的な単語は知っていますので、単語を繋げて会話し、伝えたいことの単語が分からなければ翻訳アプリを駆使してコミュニケーションをとっていました。

要するに、恐れず積極的にかつ、笑顔で話しかければ英語が喋れなくても全く問題ないということです。

○自炊が大事

私の主観ですが、エジプトの食事を食べると下痢になると過去の遠征で経験しました。

そのため、私は日本からお米2kgとパスタ1kg レトルトのカレー等を持ち込んでクッキングヒーターで料理して食べるようにして体調管理に努め、試合では心身の調子が良く本来のパフォーマンスを発揮できました。

○結局のところ気持ちと根性が大事

一日目の試合では300点満点中の289点で、上を目指すのがかなり厳しくなりました。とゆうのも、RFP 競技のファイナル出場の基準点が、584点前後ですので、二日目に5点以上引けば予選落ちになる



と感じたためです。

そのため、二日目に向けてすぐにホテルに帰り「何がダメで、何が良かったのか」を自分なりに分析し、「めちゃくちゃ狙って、気持ちで10点に入れる！」とゆう結論に至りました。

その分析のおかげか二日目は295点を撃ち、合計が584点と目標を越えることができ、「射撃は筋トレと同じで結局は気持ちと根性でなんとでもなる」と改めて感じる事ができました。

○最後に

今回一人で試合に出場して、改めて感じたことは、周りの方々の協力が不可欠であるということです。

エジプトに到着してからも、分からない事は協会に連絡し教えてもらい補助していただきましたし、銃を持って入国、出国する手続きの大変さをより詳細に理解できた事は、私自身の競技力、人間力の更なる向上に繋げることができると考えています。

結びに、ライフル射撃協会をはじめに、お世話になった方々の平素からの支援に感謝を申し上げますとともに、今後ともご指導とご鞭撻のほどをお願いして、プレジデントカップ出場の感想とします。

吉岡 大(京都府警察・ラピットファイアピストル)



第15回アジアエアガン選手権

10月12日より10月24日まで韓国 大邱（テグ）市にてアジアエアガン選手権が開催されました。日本選手団は、ライフル4名ピストル4名の計8名、スタッフコーチ3名の11名で参加しました。

参加国数17か国、選手数234名での大会となりました。

エアライフルは、ジュニアで出場の野畑美咲選手（明治大学）が630.0点の自身が持つジュニア日本記録を更新、日本記録タイの本選成績で3位にてファイナル出場、ファイナルでは開催国韓国の AN Yeeun 選手を僅差で破り銅メダル獲得となりました。

本人も、射撃スタイルの変更をウーヨンコーチと行っており、その結果が出たと非常に喜んでおりました。ウーヨンコーチは、選手とジャケットの特性をとらえて的確な射撃方法を選手に伝授しております。その結果が出たことは非常に大きなことであると考えてます。間違いなく世界のトップコーチであるウーヨンコーチが日本に来て1年となります。少しずつ日本の環境にも慣れ実績を出してきているのはうれしい限りです。

遠藤雅也選手（名阪急配）と平田しおり選手（ALSOK）のミックスイベントは3位でブロンズメダルマッチに進出。惜しくも敗退しましたが、個人戦も含め実力のある選手ですので、自分の射撃ができるように今後も調整をしていってほしいと思います。

ジュニアで出場した橋本昂希選手（法政大学）は、海外経験を積み上げて普段の実力ができるように調整をしていければと思います。

エアピストルは、阿部花論選手（土佐女子高校）が8位でファイナル進出。惜しくもファイナル8位となりましたが、良い経験ができたと思います。これから先も多くの海外試合に出場する選手です。一つ一つの経験が次の練習と糧になるので、今後が楽しみです。

岩佐正貴選手（自衛隊体育学校）と山田聡子選手（自衛隊体育学校）のミックスイベントは3位でファイナル進出。惜しくも敗退しましたが、山田聡子選手の本選点数292点は今後の個人試合も含めて価値のある結果であったと思います。韓国での様々な交流から新たな射撃に気が付いたことがこの試合最大の成果であったと思います。



集合写真

ジュニア出場の吉村和徳選手（同志社大学）は、試合会場にいち早く順応し練習では安定した射撃を行っており、試合に結び付けることを含め、経験を積んで次の国際試合を目指してほしいと思います。

今回の遠征には、高島正樹コーチ（自衛隊体育学校）に帯同頂きました。選手への的確なフォローとアシストに感謝します。（ファイナルに2回コーチとして出場しました！）

ウーヨンコーチは、ライフル・ピストル限らず地元韓国のフォローをしていただきました。本年最後のナショナルチームとしての海外遠征でした。

トップ強化と若手強化の両輪で進んできましたが、2023年はQP獲得が最大の目標となります。トップの継続海外派遣と国内強化、若手もチャンスを与えながら国内強化をしっかりと行ってまいります。今後とも皆様の御支援を賜りたく宜しくお願い致します。

選手強化委員長 佐橋朋木



ピストルチーム



ウーヨンコーチと野畑選手



野畑選手表彰 松丸会長プレゼンター



ライフルジュニアミックスチームイベント



吉村選手



山田聡子選手



阿部花論選手ファイナル 高島コーチと



ピストルジュニアミックスチームイベント



ARMIX ブロンズメダルマッチ



岩佐選手



平田選手

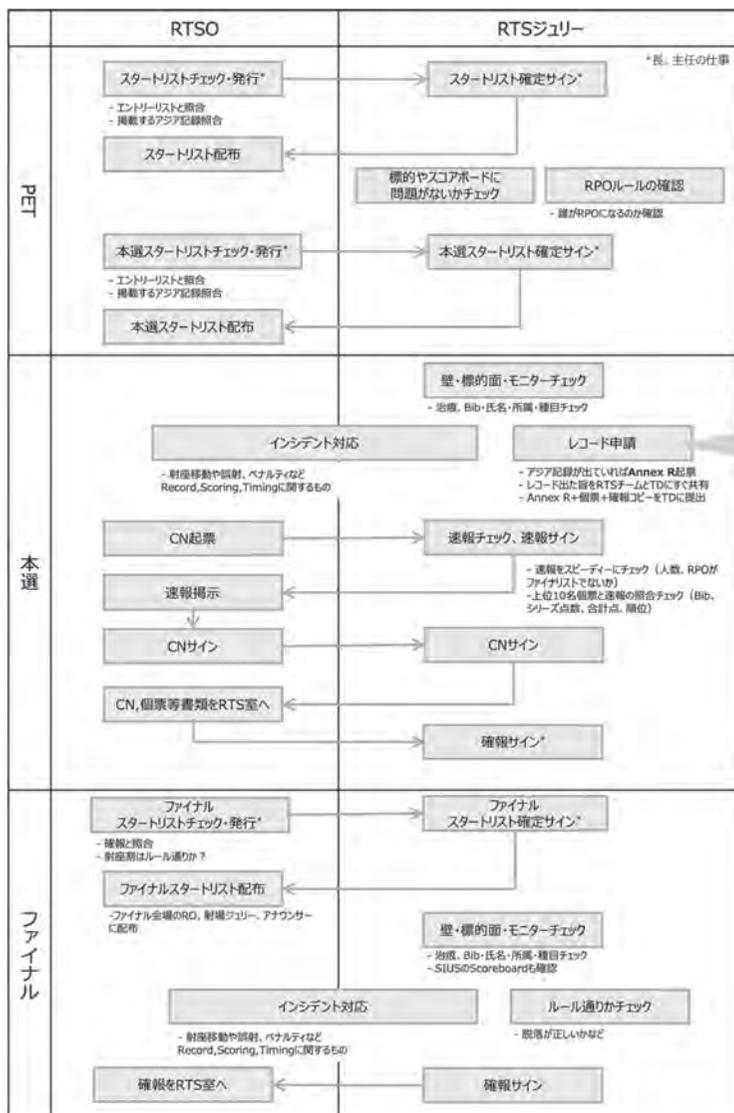
私はアジアエアガンへ RTS ジュリーとして出役しました。私にとって初めての国際大会でのジュリーでしたが、学びが多く勉強になりました。いくつかノウハウや学びをシェアさせていただければと思います。

RTS ジュリー、RTSO の役割分担：役割分担はもちろん、会場ごとの仕事割も参考になりました

RTS チェアパーソン	1名	最終的なチェック担当 各日程で誰がどの射群の本選/ファイナルを担当するか仕事割を作成する ジュリー-NTO業務の指示監督
RTS ジュリー	5名	本選会場、ファイナル会場それぞれに配置
CRISO (RTS長)	1名	RTSオフィスで警備等管理、スタートリストの発行・チェック
RTSO (RTS役員)	3名	本選会場、ファイナル会場でCN/PIRの対応、スタートリストサイン依頼

DAY	TIME	COMPETITION	MEMBER	FINAL TIME	MEMBER
12.11.2022 Day 3	1500-1515	10m Air Rifle Women	Jan Lee	12:15	Anderson / Qian
	1500-1515	10m Air Rifle Women	Jan Lee	13:00	Moon / Qian
	Part1 1500-1530	10m Air Rifle Men Team Y	Lee	15:15	Ch Yu Inwon
	Part2 1500-1530	10m Air Rifle Women Team Y	Lee	15:45	Lee / Anderson
	Part3 1500-1545	10m Air Rifle Men Team		12:01	Moon / Qian
13.11.2022 Day 4	Part1 1500-1530	10m Air Rifle Women Team	Ch Yu Inwon	14:00	Moon / Qian
	Part2 1500-1530	10m Air Rifle Men Team I		15:00	Anderson / Qian
	Part3 1500-1530	10m Air Rifle Women Team I		15:00	Anderson / Qian
	Part4 1500-1530	10m Air Rifle Men Team Y		17:00	Moon / Lee
	1400-1445	PEI 10m Air Rifle Men Y			
1400-1445	PEI 10m Air Rifle Women Y				

RTS ジュリー、RTSO の業務フロー：基本的な業務フローは ISSF マニュアルが参考になります



発生インシデント及び議論が生じたこと

- 1) タイブレイクの混乱：6.15.1 (f) 小数点競技はシリーズカウントバックだが、RTS ジュリー間で整数点競技における (a) ~ (e) と混同しており議論になった。ルールブックの表現も混乱が生じやすい。

6.15 ※6.15.1	<p>同点の順位決定 (タイプレイク)</p> <p>10m, 25m, 50m, 300m 種目の個人競技の同点</p> <p>10m, 25m, 50m, 300m 種目における同点は次のルールによってすべて順位決定がなされる。</p> <p>a) X 圏 (インナーテン) の数の多い者。</p> <p>b) 最終シリーズ 10 発の合計点 (X 圏の数や小数点得点ではない) の多い者。以下均面が破れるまでシリーズを逆順にさかのぼる。</p> <p>c) 最終弾の得点 (X 圏を含む) の高い者。以下均面が破れるまで 1 発ずつ逆順にさかのぼる。</p> <p>d) それでも同点が残り、EST を使用していた場合、最終弾の小数点得点の高い者。以下均面が破れるまで 1 発ずつ逆順にさかのぼる。</p> <p>e) 以上をもっても順位が決定しない場合、ファイナル進出者の決定に関わる同点でなければ、当該選手は同順位とし、選手の姓のアルファベット順に記載されなければならない。</p> <p>f) 10mエアライフルと50mライフル伏射種目の予選または本選ラウンドで小数点得点を使用した場合、同点の順位決定は小数点得点によるシリーズカウントバック、小数点得点による1発ごとのカウントバックによって決定される。</p>
-----------------	--

整数点競技のみのルール

小数点競技のみのルール

- 2) 射座移動の対応：射座移動発生時に射場ジュリーと RTS ジュリーとの連携が不足し、誰がどこに移動して何分延長し、何発撃つのか判断にうまく携われなかった。RTS ジュリーは Record, Scoring, Timing に関するインシデントは射場ジュリーと連携して対応する必要がある。
- 3) 本射中のエアガス発射：RO が即座に発見したため、スピーディーに RTS ジュリーから EST に 0 点挿入の指示をできた。RO が担当射座範囲をよく監視している好事例。
- 4) アジア記録更新：申請フォーム (ISSF Annex R) を作成し、TD に提出した。ドーピング検査が発生するため記録発生時点ですぐに TD へ連絡する必要がある。
- 5) RTSO との連携：RTS ジュリー側、RTSO 側それぞれで想定している業務担当範囲・フローに齟齬があり、認識を合わせるのに時間がかかった。大会ごとに競技開始前、最中、終了後、ジュリーと NTO それぞれがどのように業務を遂行するのか確認しておくスムーズに連携できそう。

国内大会で活かせそうなこと

- 自分も最近理解したが、正確で迅速な大会運営のために基本的な RTS の責務、業務フローを理解しておくとうい
- 競技開始前のスタートリストチェック段階で、日本記録を確認しておく (最新情報を協会に問い合わせしておく)
- 迅速にかつ正確な記録を発表し、スムーズに競技会を進行すること (速報掲示は射群終了後 2 分を目標に)
- 疑問があればすぐにセクション内ジュリーで相談し、解決しない・判断が割れるようであれば TD にも相談・判断を仰ぐ



RTS ジュリー同士で疑問を解決中



システムから出力された弾痕と黒ロール紙を重ねてターゲットテスト



RTS チーム

岡田 亜美

第15回アジアエアガン、テクニカルデレゲート報告(TDの主な役割)

ISSF ライフル委員 日本ライフル射撃協会 事務局長 藤井 彌 (わたる)

11月9日から19日まで韓国大邱市で開催されたアジアエアガンのテクニカルデレゲート(TD)として出役いたしました。国際試合で初めてテクニカルデレゲートを経験しました。

国際試合におけるテクニカルデレゲートとして特に重要なのは、試合予定の確定とドーピングコントロールです。

大会前後では会場や大会準備の確認、試合日程の確定、ドーピングコントロール計画の確定、ドーピングコントロールの実施、ファイナル演出と進行の確認、地方自治体への説明などが必要となります。大会後にはリザルトブックの提出、テクニカルデレゲートやジュリーチェアマンのレポート提出、ドーピング検査結果の報告が必要となります。

試合のスケジュールは、以下を中心に試合の前後関係を確認いたしました。()内は、最低必要時間です。

- 1 本選、ファイナルの競技時間が正しいか
- 2 前の射群との間隔(次の射群がPETであれば30分、本選であれば45分以上)←ただし、標的マスクが変わる場合は標的マスク交換時間を加算
- 3 本選からファイナルまでの時間(1時間以上)
- 4 前のファイナルとの間隔(45分以上)
- 5 同一選手が出場する可能性のある種目スケジュールが被っていないか

ドーピングコントロールは、アジア射撃連盟にドーピングコントロールの方針を確認し、詳細計画をたて、ドーピング検査機関と確定し、実施していきます。

その他、試合の各現場を日々訪れ、選手団はもとより、ジュリー、射場役員、スタッフにヒアリングを行うことにより、TD判断で課題解決を進める事ができました。

韓国の組織委員会、アジア射撃連合(ASC)、国際射撃連盟(ISSF)と連携して信頼関係を築く機会にもなりました。

最後に、日本からご指導、ご支援いただいた皆様に感謝申し上げます。日本の試合運営に還元していけるよう、努力してまいります。



東アジアユースエアガン大会 報告書

▼ 代表監督・ピストルコーチ 成山悟史

今回の遠征では、韓国チームとの力の差を例年にも増して感じる大会となりました。日本選手は、アウェーであることに加え、海外自体が初めての選手が多く、公式練習から緊張感が漂い、いつも通りの射撃ができない選手がほとんどで、メンタル面でも大きな差があることを実感いたしました。

そんな中、男子A Pで内田翼選手（長崎北高校）が個人で銀メダルを獲得したことで、一矢報いることができ日本選手全員が勇気を得ました。

1989年に大学生の大会からスタートした日韓大会の「交流」「親睦」という目的を、今回出場した選手たちは理解し、選手間の交流を積極的に行い、2か国のみの大会ではございましたが、原点に戻る意義ある大会であったと思います。

大韓射撃連盟の事務局長で今大会の選手団長も努められましたLee Young Jae様より、東アジアユースエアガンの参加国を何とか増やしていきたいという熱い想いを伺ってきました。

今回、シンガポールが不参加を表明したことに大変ショックだったとおっしゃっていました。不参加の理由としては、大邱市で開催されたアジアエアガン大会と期間が連続していたことと、シンガポール国内での大会が増えたためだったそうです。中国や台湾についても、積極的に参加表明しない背景としては、東アジアユースエアガンの認知度の低さだと分析されていました。

大韓射撃連盟の皆様が、この大会の発起人である朴鐘圭氏と安齋實氏を今現在も尊敬し続けていることに、感動いたしました。

本大会の開催に当たり、大韓射撃連盟の関係者、忠南道射撃連盟、瑞山市長、瑞山市チームの皆様想像を超える歓待をしていただきました。心より感謝申し上げます。

また松丸会長はじめ、日ラの関係者の皆様、選手強化委員会の皆様のご支援によりまして、日本チーム全員が忘れることができない大会となりましたことをご報告させていただくとともに、心より御礼申し上げます。

▼ ライフル男子 鶯谷高校3年 河本弦希

「私は今回の東アジアユースエアガンで多くのことを学ぶことができました。韓国の選手の撃発までの時間、引き金の引き方、姿勢や撃ち方、韓国の選手と関わってわかった日頃のルーティン、実際に撃っているところを見ていなくても学ぶことが多くありました。

今回の大会で、海外の選手と大きな力の差を感じ、私もその景色を見てみたいと思いました。韓国の選手は後ろからの姿を見ているだけでもとても勉強になりました。取り入れることができることは全て取り入れ、これからも全力で射撃に取り組んでいきたいと思えます。」

▼ ライフル男子 済美高校3年 山田崇太

今回の東アジア大会において、日本では味わうことの出来ない経験をさせていただきました。国外の選手との大会と考えるだけで、国内とは緊張度が違いました。積み重ねによる慣れによって改善する所もあると思いますが、メンタルコントロールをすることが競技を行うに当たって一番大切であると痛感しました。

その一方で技術的に得たものも多く、左手の銃の乗せ方、足の向きや開き具合、照準時

の首の降ろし方など、韓国チームの選手の射撃フォームからの学びが沢山あり、さらなる技術向上のために練習に取り入れています。競技以外でも、韓国チームの選手と交流出来たことは初めて国外へ出た私としては異国の文化を知る大変有意義な機会になりました。今回この機会を与え、支えてくださった関係者の方々に心より感謝申し上げます。

▼ ライフル男子 国際学院高校2年 大山誠道

今回の東アジアユース大会で、学んだことはたくさんありますが、1番に学べたことは、韓国との実力に大きな差があるということです。最初は韓国の選手がどれだけの点数を撃つのか想像もしていませんでしたが、公式練習で隣のデーハン選手が632点を撃っていて、正直一気に自信が無くなりました。

ウーヨンコーチから頂いた、ウェイトトレーニングをした方がいいといったアドバイスなどもしっかり受け止め、今後の練習で解決する課題になりました。これは自分にとって、とても大きな学びとなり、今の自分と改めて向き合うことが出来ました。また、今回連れて行ってくださった、JOCや日本ライフル射撃協会にも、感謝を忘れず、学んだことを活かして今後の結果でその感謝を伝えようと思いました。

▼ ライフル女子 西武文理高校3年 嘉部 恋

今回の大会で学んだことは、私と韓国選手では、練習の質や練習の成果を発揮する力に差があるということです。しかし、差を感じたと同時に、ものすごく遠くて届かないような存在ではないと思いました。韓国の選手団関係者の方に、芯に本当の強さを持っていると言って頂き、その強さを存分に活かすような射撃をしたいと強く感じました。

今後の取り組みとして、ポジティブな思考を持ちながら、トレーニングでは貪欲でいたいと思います。このチームで学んだ全てをプラスにできる行動をとるようにしたいです。

▼ ライフル女子 成立学園高校2年（JOCエリートアカデミー） 山田咲来

東アジアユースエアガンを通して、技術の面以上にメンタルの面で学んだことが多かったです。

緊張をして自分を見つめる余裕のなさが出てしまいルーティンができていませんでした。射撃中の考えをシンプルにすることや、ルーティンを磨いて、どんな場面でも自分の射撃ができるようにしていきたいと思いました。

▼ ライフル女子 別府翔青高校3年 野村奈生

まず、NTCでの合宿では、普段と違うメンバーと練習をしたことで、楽しくかつ良い環境で練習ができる喜びを感じました。NT選手（岡田選手や小西選手）の振る舞いや練習の様子を見てとても良い刺激を受けました。

合宿最終日の練習のルーティンの講習はとても参考になり、今回の試合はルーティンを徹底するというテーマに集中して取り組みました。日本は公式練習から緊張していましたが、韓国チームは堂々とした姿で射座に入っていました。自信を持って射座に入るとは、今後自分が成長するためにも必要なことだと感じました。そして、今後も国際大会出場を目指して努力していきます。ありがとうございました。

▼ ピストル男子 長崎北高校2年 内田 翼

今回の東アジアユースエアガン遠征で私が感じたことは、公式練習を見ていたり、コミュニケーションをとったりすると韓国人選手がいつもベストを続けていることはなかったですし、同じ感情を持ち自分自身と戦っていると知りました。そこで私は同じ人間ならできないことはないと思い自分への期待が高まりました。

また、国際交流の楽しさを知りました。積極的にコミュニケーションを試みると韓国人選手全員と技術的なことはもちろん普段の生活のことまで言葉が通じないのに話すことができました。この遠征を通じてもっと強くなりたいと思う気持ちを高めることができ、そのことが1番の収穫ではないかと思いました。

▼ ピistol男子 由布高校3年 佐藤宗哉

今回の大会では自分はまだまだ力不足だと感じました。でもミックスでは自分のルーティン通りに撃て、しっかりと休憩を取れながらいい射撃ができたと思います。学んだことは練習量が日本とは比べ物にならないくらい練習をしていたことです。他にもトリガーの感触が全然違うことやグリップの形状などとてもいい勉強になりました。

これから先は韓国で学んだことを活かしながら今までよりも効率よく銃のグレードアップなどをメインに取り組んでいきたいです。ありがとうございました。

▼ ピistol男子 栄北高校1年 横田大和

世界には自分より上手い人がたくさんいるけど、自分達と同じように緊張したり、楽しく会話が出来るといことです。射撃面では、試合も練習と同じようにするために出来るだけ同じリズムで撃てるようにしたいと思いました。

韓国人と比べて銃の揺れや引き金の安定感がまだまだ未熟だったので毎日、据銃や空撃ちをしたいと思います。

来年の東アジアユースまでには560点を安定して撃てるようにして韓国の選手としっかり戦えるようにしたいです。

▼ ピistol女子 土佐女子高校2年 阿部花論

今回の東アジアユースは、課題を多く見つけられた試合でした。精神的な面でも弱さが出てしまい、ポジティブな考え方を維持することができなかった部分もあったので、一発一発の良かったところを考えながら撃つことを続けて出きるように練習していきたいです。今回の遠征は、ピistolやライフルなど関係なく日本チームの仲がとても良かったことが、韓国チームと積極的に交流することができたことに繋がっていると思いました。

力の差や自分自身の不甲斐なさを強く感じた遠征でしたが、まだ強くなれると思えた試合だったので、これからも頑張りたいと思います。

▼ ピistol女子 仙台育英高校3年 武市愛理

今回初めて国外での大会に参加させて頂くことになり、今まで以上に不安や緊張を感じてしまい自分のイメージ通りの射撃をすることができませんでした。競技成績からも大きな差を感じましたが韓国の選手とはあまり練習時間は変わらず、射撃練習の他にウエイトやランニングなどのトレーニングを行っている事を知りました。自分はその様なトレーニングには無縁だった為、これからの取り組みとして筋トレやランニングといったフィジカルトレーニングにも挑戦してみようと思いました。また大会前の自分ルーティンを明確にし、集中力を高める方法を普段の練習から取り入れ競技に対するモチベーションを高めたいと考えました。

▼ ピistol女子 宇和島東中等教育学校2年 東 晴七

東アジアユースで学んだことは、練習量と試合に対する準備が足りていないということです。韓国の選手は、毎日2時間程練習していると聞きました。私は、射場が近くに無いので、APを毎日撃てる環境ではありません。その中で、周りの選手との差を広げないために、練習の質を上げていかなければならないと感じました。そのために、練習ではテーマを決めて、引き金、姿勢、照準の細かな部分まで敏感に感じ取れるようになりたいです。

この経験をこれからの射撃人生に積極的に活かしていきます。

このような機会をいただいたことに、ほんとうに感謝しています。

▼ ライフル・ピistolコーチ 角谷理沙 (国際学院射撃部顧問)

今回の遠征では、12名の選手を海外に連れていくという使命感と責任感を持って臨みました。その中でも、選手のコンディションを特に意識しました。海外に行くことが初めての選手も多く、心配や不安も大きかったのですが、特に体調を大きく崩す選手もなく、

無事に大会を終えることができました。

試合が始まり、韓国チームの強さを改めて感じましたが、同時に日本のジュニア選手の可能性も十分に感じることができました。ピストルでは長崎北高校の内田翼選手が銀メダルを獲得し、韓国チームからも賞賛されました。ファイナルでは、韓国チームも一緒に応援してくれるなど、選手たちの親睦の深さを感じました。

私たちコーチ同士の交流も深められ、選手に寄り添い指導している姿勢はとても共感できました。練習環境などの違いはありますが、韓国チームから学んだことが多く、これからの日本のジュニア育成についての課題や将来性が見えてきた気がします。日本人選手との会話の中では、課題などが共有でき、韓国チームやウーヨンコーチからのアドバイスが技術向上のヒントになることと期待しております。射撃競技が今後発展するためにも、私たちコーチが選手と共に成長し、選手の成長を支援することがこれからも大切になってくると改めて感じました。

参加した選手は、今大会の経験を活かし、次の目標へと前進しています今回このような機会をいただいた日本ライフル射撃協会をはじめ、成山監督、ウーヨンコーチには心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



銀メダル 内田翼選手



韓国チームと

第45回全日本前装銃射撃競技選手権大会

令和4年10月23日、千葉県総合スポーツセンター射撃場において、第45回、本大会が日本前装銃射撃連盟が主管し開催された。

全国から、13名の選手（内女性1名）が参加した。

例年の参加選手数に比して少人数であるが、コロナ過により大会が中止され、三年ぶりの大会である。

火縄銃による射撃大会は、故・安斎実会長のもとに開始され、千葉県総合スポーツセンター射撃場は、その発祥の地として記念すべき射撃場である。

競技種目は、立射・膝射・短筒・中筒の4種である。

種目ごとの選手権証は、立射・佐野翔平選手（静岡）、膝射・本多彰選手（千葉）、短筒・大山比左男選手（千葉）、中筒・橋本昌憲選手（東京）が獲得し、総合優勝の大杯は、本多選手が手にした。

競技時間は30分、発射弾数13発、射距離は立射、膝射、中筒が50m、短筒が25mで、獲得点数上位10発を合計したものを得点とする競技である。

今大会は、若手、新人の参加が目立ち、今後の発展に期待したい。

大会の運営は、千葉県ライフル射撃協会・伊藤会長以下多くの会員の皆様の理解と協力を得、更に国体で活躍した高校生や一般人が来場し、射撃の原点である火縄銃の射撃を見学されました。厚く御礼申し上げます。

そして、我々日本前装銃射撃連盟の会員は、100人余りの少数ではありますが、日ラの会員として、日ラが主催する選手権大会に参加できることを誇りとしております。

松丸会長以下、全国の日ラ会員の皆さまに、心より御礼申し上げます。

我々会員は、火縄銃のコレクターとして、そして実弾射撃競技者として、400年前に製造された、現存する火縄銃の保存と射法の研究を重ねて参りました。故・安斎実会長をはじめ、多くの先輩諸氏に感謝申し上げます。

今後本選手権大会が永続的に開催されますように、選手一同努力して参りますが公認射撃場の固定的などの問題で千葉県射場の一か所のみになりました。

本大会がライフル射撃の発展に繋がることを信じ、より一層のご理解を賜りますようお願いして、諸報告の稿を終わります。ありがとうございました。

成績表

立射

1	佐野翔平	78
2	橋本昌憲	72
3	永田敬二	72
4	中嶋秀美	71
5	浅野秀一	71
6	青木 孝	68
7	本多 彰	65
8	大山比左男	59
9	布川 誠	54
10	井原美由紀	50
11	角替 進	48
12	種村直彦	45
13	曾根原健一	40

膝射

1	本多 彰	84
2	種村直彦	83
3	青木 孝	74
4	浅野秀一	74
5	橋本昌憲	73
6	佐野翔平	68
7	大山比左男	65
8	中嶋秀美	65
9	永田敬二	61
10	布川 誠	56
11	井原美由紀	41
12	曾根原健一	38
13	角替 進	13

中筒

1	橋本昌憲	70
2	曾根原健一	37
3	布川 誠	29
4	永田敬二	26

総合

1	本多 彰	149
2	佐野翔平	146
3	浅野秀一	145
4	橋本昌憲	145
5	青木 孝	142
6	中嶋秀美	136
7	永田敬二	133
8	種村直彦	128
9	大山比左男	124
10	布川 誠	110
11	井原美由紀	91
12	曾根原健一	78
13	角替 進	61

短筒

1	大山比左男	38
2	本多 彰	33
3	中嶋秀美	21
4	角替 進	18



選手と筆者



総合優勝 本多 彰



短筒



立射



膝射

2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会（CFP 種目）

本年度のセンターファイアピストル種目の全日本選手権大会は12月の9日から11日までの3日間の日程で行われました。例年に比べ遅い時期の開催となったのは、標的回転装置の改修に時間がかかったためでした。昨年度の大会では、装置の経年劣化により3セクション15的しか作動せず、しかもうまく連動しない事態もしばしば生じ、大会運営には大変苦労しました。そのため本年度のこの大会の開催はあきらめていたのですが、CFP 種目の重要性に鑑み、標的装置の改修を日本ライフル射撃協会が行って下さることになりました。しかしながら、折からの半導体不足、関連製品不足に巻き込まれ、装置の改修完了、設置が遅れてしまいました。新しい装置は、これまでの電動モーターとストッパーの代わり、空気圧式アクチュエーターにより動作するもので、コントロールボックスも新規に作成しました。以前のものに勝るとも劣らない動作状況で今後の大会継続に道が開けた思いです。



【12月10日（土）精密射撃ステージ】

三連覇のかかる京都の吉岡大選手（京都府警）は285点で前回同様の得点でしたが、本年度は精密射撃での高得点者が多く10位となりました。292点で暫定トップに立ったのは千葉の佐藤優磨選手（千葉県警）で、2位につけたのは290点で前回準優勝の福岡の木原幹夫選手（福岡県警）と鳥取の湯ノ口弘之選手（鳥取県警）、4位には紅一点大分の財津美加選手（大分県警）が288点で入りました。5位からは287点で4人が並ぶという混戦模様を呈することになりました。

【12月11日（日）速射ステージ】

晴天の前日とは打って変わって、速射ステージの2日目は小雨が断続的に降り続けるというあいにくの天気となりました。速射が得意の京都の吉岡選手は290点と高得点を撃ちましたが、本年度の大会では速射で290点以上の得点をあげた選手が7名も現れました。速射でのトップは292点の鳥取の湯ノ口選手、つづく291点は愛知の松本洋選手（愛知県警）、神奈川の久松圭太選手（神奈川県警）、兵庫の岩田泰輝選手（兵庫県警）、京都の森下貴登選手（京都府警）の4名が記録し、290点は東京の市川広義選手（警視庁）もマークしました。



【センターファイアピストル種目の成績】

鳥取の湯ノ口選手が、精密射撃ステージを290点、速射ステージトップの292点で初優勝を合計点582点でかざしました。2位は精密射撃ステージトップの千葉の佐藤選手が578点（292+286：X=20）で入り、3位には精密射撃ステージ287点、速射ステージ291点を撃った愛知の松本選手が同点の582点（X=16）で入りました。4位は575点で京都の吉岡選手、5位と6位は574点で埼玉の松澤考祐選手（埼玉県警）（X=18）、福岡の木原選手（X=17）、7位と8位は573点で静岡の横山博登選手（静岡県警）（X=19）、神奈川の久松選手（X=17）となりました。精密射撃ステージで上位につけていた大分の財津選手は速射ステージ277点とふるわず合計565点で21位にとどまりました。



広島県ライフル射撃協会 平井宏治

2022年度全日本ライフル射撃選手権大会（50mライフル） 兼 全日本選抜ライフル射撃競技大会（10mAR/AP）

11月4日から3日間、埼玉県長瀨射撃場において2022年度全日本ライフル射撃選手権大会（50mライフル）兼 全日本選抜ライフル射撃競技大会（10mAR/AP）が開催されました。

大会1日目、50mライフル男子3姿勢60発競技では、大塩優斗選手（明治大学）が453.3点を撃ち優勝。2位には586点で本選トップの岡田直也選手（ALSOK）が、3位には花川直樹選手（自衛隊体育学校）が入賞しました。

女子エアピストルでは小西ゆかり選手（飛鳥交通）が237.3点で優勝。2位には、財津美香選手（大分県警）が、3位には星野優奈選手（警視庁）が入賞しました。

女子エアライフルでは平田しおり選手（ALSOK）が250.4点を撃ち優勝。2位には一ノ渡 桜選手（神奈川県）が、3位には清水綾乃選手（自衛隊体育学校）が入賞しました。

大会2日目、50mライフル女子3姿勢60発競技では、堀内 愛選手（日本大学）が459.4点を撃ち優勝。2位には586点で本選トップの清水綾乃選手（自衛隊体育学校）が、3位には松本靖世選手（熊本県）が入賞しました。

男子エアピストルでは小柳勇生選手（福岡県）が237.7点で優勝。2位には、森川清司



選手（広島県警）が、3位には金坂春杜選手（自衛隊体育学校）が入賞しました。

男子エアライフルでは626.0点を撃ち本戦トップの橋本昂希選手（法政大学）がファイナルでも246.7点を撃ち優勝。2位には岡田直也選手（ALSOK）が、3位には篠原章宏（マス・サンファーム）が入賞しました。

大会3日目、50m伏射60発競技、男子は山下敏和選手（自衛隊体育学校）が619.3点を撃ち優勝。女子では清水綾乃選手（自衛隊体育学校）が617.3点を撃ち優勝しました。

10mAPMIXでは山田・園田チームがゴールド、小西・森川チームがシルバー、財津・木原チームがブロンズとなりました。

10mARMIXでは平田・岡田チームがゴールド、清水・島田チームがシルバー、一ノ渡・遠藤チームがブロンズとなりました。

新型コロナ感染拡大の影響で2020年度が中止となり、長瀨射撃場での開催は4年ぶりとなりました、競技参加人数延べ325人という盛大な大会となりました。

大会の開催にあたり多くの方に尽力いただきました。ここにあらためて御礼申し上げます。

埼玉県ライフル射撃協会 田中僚一郎



全日本ライフル射撃競技選手権大会 (25mピストル) 兼 強化選手選考会

テクニカル デレゲート 三 木 容 子

V2吉岡大選手（京都府警）RFP 2連覇 初優勝 佐々木千鶴選手（岩手県警察）

2022年11月12日（土）～2022年11月13日（日）の二日間、強化選手選考会（25m種目）を全日本選手権と兼ねて、ハイパフォーマンスセンター（HPSC）屋内トレーニングセンター・イースト射撃場にて実施致しました。今回の強化選手選考会は、2024パリ五輪に向けたNT候補選手達が全国から集い、競い合う競技会となりました。

25m ラビットファイアピストル

本選では、前半297点の高得点を撃った吉岡大（京都府警察）が588点を記録し首位に立ちました。若手の武内響（自衛隊）が570点を撃ち2位、久松慶太（神奈川県警察）が568点で3位。育成枠で世界選手権を経験した自衛隊体育学校所属の武内、金坂春杜、兵庫県警察の岩田泰輝が、ベテラン森栄太（自衛隊）、吉岡に挑みましたが、結果、吉岡が28ヒットで第2位の武内に2ヒット差を付けて優勝し2連覇を達成しました。（敬称省略）

優勝者のコメント

●吉岡大（京都府警察）25m ラビットファイアピストル

○こんな感じ？

これは、全日本 RFP 選手権の始まりに感じたことです。

なぜなら、本来持つて行くはずの射撃道具一式を忘れてしまい、PET ではいつもと全く違う環境で撃たなければならなかったからです。

いつも使用している射撃道具は、射撃用メガネ、耳当て、ベルト、グリップの滑り止め液、射撃シューズで、これら全て忘れてしまったので、とにかく PET 前の空撃ちでは、照準の意識のみに集中して、「こんな感じ？」という感じでした。

結果は上出来、内容は新たな気づき結果としては、予選点数588点、ファイナル28ヒットで連覇を達成し、ほぼベストな成績でした。肝心の内容については、なんと自分でもビックリしましたが、新しい照準方法を体得しました。この技術はその後にエジプトで開催されたプレジデントカップに活かされました。何が言いたいかという無い物に拘らずに今どうすべきか、何をしたら良い結果を出せるのかに集中すべきということです。

射撃選手全般に言えることかもしれませんが、一つのことに拘りを持って競技している方がほとんどだと思います。ですが、ちょっとしたことで大きく成長する要素があちこちにあると思っています。よくピンチはチャンスと言いますが、私の今回の全日本 RFP 選手権はまさにそれでした。皆さんも不意に訪れたピンチは、もししたら大チャンスかもしれませんよ！

25m ピストル女子

精密ステージでは、小西（飛鳥交通）が292点を撃ち、第2位の財津美加（大分県警察）に1点差を付け首位。速射ステージでは山田聡子（自衛隊）が291点を撃ち計578点（X18）で首位、財津が578点（X16）の同点第2位、佐々木千鶴（岩手県警）が576点の第3位でファイナルに進出しました。

ファイナルでは、佐々木が32ヒットを撃ち、第2位の山田聡子（自衛隊体育学校）に8ヒットの大差を付け堂々と初優勝を果たしました。（敬称省略）

優勝者のコメント

●佐々木千鶴（岩手県警察）

全日本選手権大会25mピストルにおいて、初めて優勝することができました。本当にありがとうございます。

初めて、優勝杯を手にした時、優勝杯の重さに驚くと同時に、この優勝杯を岩手の地に持つて帰ることができる喜びを感じたことを覚えています。

常日頃からはありますが、今回の優勝もたくさんの方々のおかげあって、結果を得ることができました。

これからも感謝の気持ちを忘れず、更なる高み・強さを目指して進化していきたいと思っています。



25mRFP 入賞者 吉岡選手2連覇（前列中央）



25mSP 佐々木選手初優勝

2022年度全日本ライフル射撃競技選手権大会 (50m ピストル)

11月26日、埼玉県長瀨射撃場において、2022年度全日本選手権（50m ピストル）が開催されました。

優勝は528点を撃った池上 啓選手（東京都）、第2位は510点の阿久津利夫選手（栃木県）、第3位は497点を撃った生野明利選手（神奈川県）が入賞されました。

今回の大会参加者は6名、オリンピック種目からFP60が無くなり、国内でFPを撃つ選手はとても少数となってしまいました。

長瀨射撃場での開催も今回で2回目、来年度は世界選手権も開催される予定です。装薬けん銃の所持と維持には、高いハードルがありますが、引き続き競技が継続できるように少しでも盛り上げていきたいと感じています。

埼玉県ライフル射撃協会 田中僚一郎



優勝 池上選手



3位 生野選手



2位 阿久津選手



表彰式



競技風景

第26回全日本マスターズライフル 射撃選手権大会（10m・50m）

2022年11月12・13日 藤枝市スポーツパル射場

2年ぶりに藤枝市のスポーツパル射撃場マスターズ全日本が帰ってきました。コロナ禍により昨年度はパル射場への県外射手の入場が不可能になり、三重県射協のご協力により三重県営射場での開催をお願いして開催に漕ぎつけた経緯がありましたが、今年度は7次のピークも終息したおかげで無事大会を行うことになりました。

大会開催に当たって、どの程度の参加者があるのか大いに心配しておりましたが、おかげ様で109名の申込が有り、コロナ前の参加者数とほぼ同数の選手に集っていただきました。

マスターズ連合では今年度より、各競技種目の従来通り年齢別による表彰はもちろん行いますが、連合独自のハンディキャップ制を使ったハンデ戦表彰も取り入れて4月のマスターズオープン、6月の東西マスターズ、9月のジャパンカップ、11月の全日本と5回のトライアルを行ってきました。試行錯誤をしながらの運用でしたが、参加者もハンデによって、年齢差の無い競技を楽しんでもらえているのではないかと考えております。もちろん射撃の点数はスクラッチの点数で順位を競い、自己記録に挑戦するものだと思いますが、その中に上手下手が楽しく戦える要素も必要ではないかと考えて行っております。

マスターズ大会への参加回数を重ねることにより、より公平なハンデが得られるので今後とも会員各位の各マスターズ大会への参加を期待しております。

ARS60MW 種目：ダイヤモンド、ゴールドクラスは各1名と少ない参加者であったが、シルバー・ブロンズクラスは7名の参加者のうち3名が613.0、607.2、603.1と高得点を記録した。山田恵美さんが女子のBクラス日本新記録を撃ち記録証と商品券を獲得しました。

ARP60MW 種目：8名参加のうちGクラス桂玲子さん、Sクラス瀬賀亜希子さんがマスターズ日本新記録達成いたしました。

AP60MW 種目：19名の参加者であった。最近ではAPの参加者が増加傾向にあり、今後は参加者が増えてくるのではないかと考えられます。その中で小森香美さんがマスターズ日本新を撃ちました。

HR40M 種目：3名参加、田淵選手353点

50mP60MW 種目：43名の参加者中80歳以上の方が3名おられ、そのうちのおひとり高桑昭紀さんがPクラスでマスターズ日本記録を樹立されました。ご立派と言う外ありません。

50m3×20MW 種目：16名の参加者でこれまた過去の大会では平均12、3名であったが多数の方が参加してくれました。また女子も3名の方が参加してくれ、これからも3姿勢に女子射手の参加が増加することを願っております。日本新記録も常連の前橋典子さんが撃ち、初参加の黒田直子さんがDクラスで525点のマスターズ参考記録を出されました。男子もうかうかしておれません。

マッチゲーム種目：マッチゲームは過去大会では20名近くの参加者が有りましたが、今回は10名と少ない人数でしたが、熱戦を繰り広げて前回優勝者の城口保雄さんが一回戦104.2、準決勝103.3、優勝決定戦102.6と年齢のためか1点ずつ落しながらも合計310.1点で実力のほどを示して貫録勝ちを収めました。



10m ブロン



10m AP



10m S60



50m 3姿勢 1射群



50m 3姿勢 2射群



50m P60 1射群



50m 三姿勢 2射群



マッチゲームの様子



マッチゲーム連覇の城口さん



大会モニュメント



表彰式



表彰式のプレゼンター

マスターズの射手は何歳になっても、若い心を持ってスポーツ射撃に取り組んでおります。人生100年時代です、何歳になっても出来る射撃を50、60歳で辞めるなんてもったいないですよ。一緒にやりましょう。

日本マスターズライフル射撃連合
事務局 萩原 一孝



表彰式後の集合写真



ライフルスポーツへの 記録掲載終了のお知らせ



いつもライフルスポーツをご購読頂きありがとうございます。

グレードG2以上の協会主催大会成績を掲載しておりました記録集は、2022年5月号をもって終了させて頂きました。

協会主催大会の成績は、日本ライフル射撃協会公式HPの大会情報にて掲載しておりますので、今後はそちらをご確認下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

販売設置は日本全国へ

■ Meyton(マイトン)電子標的システム



Meyton電子標的の特徴：

- ・赤外線バリヤを通過した位置を測定
- ・センターは常に一定
- ・測定精度は1/100mm
- ・ワークステーションによる一元管理
- ・1台から利用可能
- ・10m, 50m競技用（25mは別製品）
- ・測定用消耗品は不要

Meyton(マイトン)電子標的導入射撃場（順不同）：

新潟県立胎内ライフル射撃場(10, 50m) 茨城県菅ライフル射撃場(10, 50m) 福井県立ライフル射撃場(10, 50m) 長野県中尾山射撃場(10, 50m)
 神奈川県立伊勢原ライフル射撃場(10, 50m) くりはま花の国エアライフル場(10m) 宮城県ライフル射撃場(10, 50m) 沖縄県ライフル射撃場
 (10m, 50m) 荒川区総合スポーツセンター(10m) 慶應義塾大学(50m) 中央大学(50m) 日本大学(10m, 50m) 明治大学(10m)
 その他高校・大学多数導入 ※大阪府能勢町ライフル射撃場(10m, 50m) メンテナンスのみ (國友銃砲火薬店様導入)

有限会社 三和管財

〒277-0862 千葉県柏市篠籠田1326 TEL: 04-7143-6122 Fax: 04-7147-0745
 Meyton社製品 日本ディストリビューター / Noptel社製品 輸入総代理店

来たとき よりも キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン

KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!



公益財団法人 日本オリンピック委員会
Japanese Olympic Committee

10.9 FOCUSED.
TARGETED.
EXACTLY.

WALTHER

LG400
MONOTEC



KK500
PRECISION IN A NEW DIMENSION

POWERED PERFORMANCE.



(公社) 日本ライフル射撃協会オフィシャルサプライヤー

株式会社 **國友銃砲火薬店**

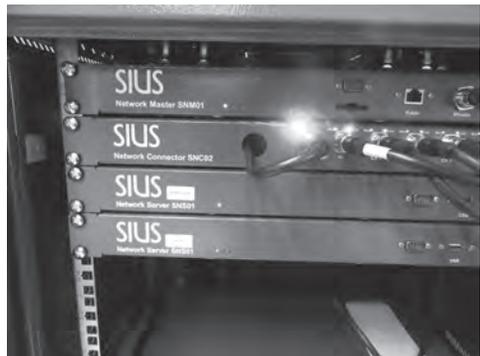
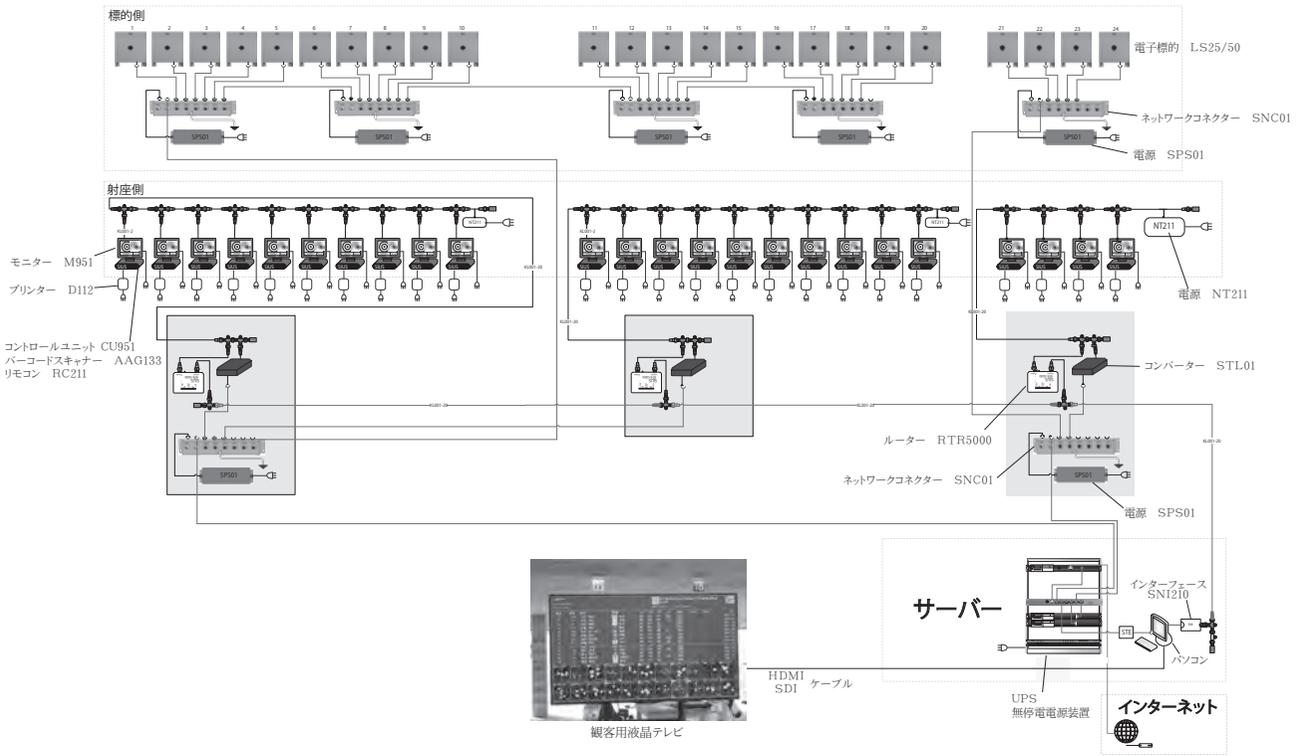
〒600-8032 京都市下京区寺町通仏光寺東入る 國友ビル3F

ワルサー社・エレー社 日本代理店

TEL(075)351-3037 FAX (075)351-3041

<http://www.kunitomogs.co.jp> E-mail: shooting@zj8.so-net.ne.jp

STYX ネットワークシステム



ISSF公認 (Phase III・最高評価の公認)

光学式電子標的・超音波式電子標的

SIUS 社 日本総代理店

日本ビーム株式会社

www.japanbeam.com



ビームライフルで射撃スポーツを始めましょう!

BEAM·RIFLE SHOOTING SYSTEM

ビーム・ライフルの特徴

- ビーム・ライフル/ピストルの光源はキセノン管発光で、人体には影響のない安全な光です。
- 標的装置の設置は水銀灯、白熱灯、蛍光灯などを使用する体育館や教室で利用できます。



ビームライフル ジュニア用 型式 MBR-203J

この銃は 3.0 k g と軽量で、全長も小中学生などに合わせた入門者向けのモデルです。バットプレートは体格に合わせて、前後に調整できます。専用バッテリー、サイトセット、ハードケースが付属します。



ビーム・ライフル 型式 MBR-201

この銃はチークピースの調整を容易にした、バランスー付の競技者向けのモデルです。

ビームライフル・システム



ターゲット装置
型式 MT-201



ディスプレイ装置
型式 MD-201L



プリンター装置
型式 MP-216

〔 製造・発売元 〕

—KOTO— 興東電子株式会社

本社 〒306-0232 茨城県古河市東牛谷 603-2

電話 0280-98-3387 FAX 0280-98-1180

<http://www.kohto.co.jp> E-mail: info@kohto.co.jp

NEW!!



GINZA GUN LTD.

Feinwerkbau Model.900Alu



ファインベルクバウの新型エアライフル！
新設計のアブソーバー、バレルクランプ、
弾を込めやすくなった装填口...
モデル800から大幅進化！



商品に関するお問い合わせは、お電話・メール、または弊社公式LINEまで！！

株式会社銀座銃砲店

〒104-0061 東京都中央区銀座6丁目
13番7号(新保ビル2階)

TEL:03(6226)6133 FAX:03(3543)1444

Mail:info@ginzagun.com



友達追加はこちら!!



公式SNSで
お得な情報発信中!!

右記QRコードよりチェック!!



facebook



Instagram



TWITTER



ホームページより
カタログをダウンロード
できます。



ライフルスポーツ 購入申込方法

◆お申し込みは郵便振替または現金書留で下記の宛先までお願いします。

⇒郵便振替の場合

郵便振替 00140-0-707998 公益社団法人日本ライフル射撃協会

⇒現金書留の場合

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 公益社団法人日本ライフル射撃協会ライスポ担当

◆価格（送料込み）

⇒一部300円、年間1,800円 学生・生徒一部200円、年間1,200円

◆会員への配布

⇒会員については、会費に含まれていますので、自動配布となります。ただし、大学生及び中高生会員への配布は、当協会の規程によります。

⇒会員のご登録住所にお届けしております。ライフルスポーツがお手元に届かない場合は、所属加盟団体へ登録住所のご確認をお願い致します。

原稿募集します

□活動状況など

⇒各加盟団体や学校やクラブなど活動の様子を紹介します。

□エピソードなど

⇒射撃にまつわるおもしろいエピソードなど大歓迎します。



□協会に対する意見、質問など

⇒会員からの協会に対する直接の意見や質問をお寄せ下さい。なるべく建設的な意見を。

□投稿規定

⇒A-4に横書き（2段組み、各21文字）でお願いします。データも付けていただくとライスポ掲載に便利です。

※現在紙面の都合で掲載できずにお預かりしている原稿が多数あります。投稿される際は事前にご相談ください。

●発行人 ———— 松丸 喜一郎

●編集 ———— 総務委員会

●発行所 ———— 公益社団法人日本ライフル射撃協会
(2019年7月より 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE
新住所) 電話 03-6721-0792 / FAX 03-6721-0793
E-mail: rifle@japan-sports.or.jp
http://www.riflesports.jp/

●印刷所 ———— 広研印刷株式会社
〒171-0033 東京都豊島区高田3-3-16
電話 03-3208-8273 / FAX 03-3208-8244

本誌は、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。



#ともに 越えよう

休んでたわけじゃない
不安や孤独と戦いながら 高めていたんだ
闘志を 自分自身を

私たちの 想いは 情熱は
湧き立ち みなぎり 駆り立てる
前へ 前へ 前へ

できる やれるよ 私たちなら想いをひとつに
その先へ行く力 「ダイバーシティーコンセプト」

さあ スポーツが待ってる

REACH BEYOND





ライフルスポーツ THE RIFLE SPORTS 2023.1

第458号

令和五年一月一日発行 隔月(奇数月)一日発行
昭和五十三年二月二十五日第三種郵便物認可

発行人・松丸喜一郎
発行所・公益社団法人日本ライフル射撃協会

東京都新宿区霞ヶ丘町4-1-2



24時間365日、守り続ける。
いつでもすぐに駆けつける。
「安全・安心」に、
住まいと家族を見守る一番強い存在に、
私達はなりたい。

それがALSOKの
変わらぬ想いです。

ホームセキュリティで幸せを



ALSOK レスリング部
コーチ兼選手
伊調 馨

サンキュー ツヨイ ミカタ

24時間365日受付

☎ 0120-39-2413

定価 300 円